

Top Interview

トップインタビュー

— 変革に挑む —

まとも／堀水潤一 撮影／亀田万太郎

短大の実績と伝統をベースに さらなるレベルの向上を目指し 2013年岡崎女子大学が誕生

清 光学園「岡崎女子短期大学」には、現在「幼児教育学科第一部」「幼児教育学科第三部」「経営実務科（2013年より「現代ビジネス学科」）」が設置されています。また新たに四年制大学「岡崎女子大学（子ども教育学部子ども教育学科）」の13年4月開学を目指して、文部科学省への設置認可申請を行い、認可を賜りました。短期大学の実績を生かしつつ、教育のいっそうの高度化と充実化を目指すことが四年制大学設置の目的です。

1965年の開学以来、岡崎女子短期大学は女子教育の拠点として、教育保育現場や企業などで活躍する約2万3000人の卒業生を世に送り出してきました。とりわけ、幼稚園教諭や保育士の育成においては、伝統校としての実績に対し地域からの高い信頼を得ています。幼児教育学科の教育の特色の一つは、「保育者としての豊かな感性と表現力」の育成です。特に音楽・美術・体育分野の表現力を保育実践力に結びつける試みである「幼児教育祭」は、07年度に文部科学省の特色GPにも採択され、地域の子どもたちや保護者を含め、例年3000人以上が参加する一大教育活動として知られています。多種多様な創意工夫と試行錯誤を重ねつつ、子どもたちとのやりとりの中から全身で学ぶ体験を通して、「子どもと響きあえる」自分へと成長していくこととする学生の姿には、いつも大きな感動を覚えます。



岡崎女子短期大学
学長
長柄孝彦

【学長プロフィール】ながら・たかひこ●1951年生まれ。愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。同大学院音楽研究科修了。岡崎女子短期大学講師などを経て、2008年より現職。オペラ「夕鶴」など多数の舞台経験をもつ。

【大学プロフィール】1965年開学。幼児教育学科（第一部、第三部）、経営実務科（2013年に現代ビジネス学科に名称変更）。岡崎女子短期大学とは別に、13年、岡崎女子大学（子ども教育学部子ども教育学科）が開学予定。

13年4月に「岡崎女子大学」が開学すると、短期大学の既存学科を含め、より充実した教育上の選択肢を受験生に提供できるようになります。社会環境が激変し、家庭や地域の子育て力の低下が危惧される中で、教育保育系大学に期待される役割も変化しつつあります。時代や地域のニーズを的確に受けとめ、周囲と連携しつつ、適切な助言や支援を行える人材の育成が求められているのです。大学そのものも地域に開かれた存在にならねばなりません。「豊かな感性と表現力」の育成に加えて、教育の本質への理解を深め、確かなコミュニケーション力や家庭支援力を獲得し、地域に貢献しうる教育者・保育者を育成することが岡崎女子大学の使命と考えています。

一つのキャンパスに幼児教育分野の専門家が多数集結し、さまざまな角度からの教育研究を実践しつること、新たに学修支援施設を設置し、学生の自律学習やアクティブ・ラーニングを支える学修支援体制が構築されつつあること、長期フィールド実習などの先進的な取り組みを導入していることなど、これまでの伝統と実績をベースにしつつも、斬新で柔軟な教育を展開しうる環境が生まれつつあるのです。